

ウェビナーイベント

カナダと日本、二国間におけるクリーン水素を通じた連携機会を活かす



講演者略歴

ジョナサン・ウィルキンソン氏

2019 年以降、環境・気候変動大臣 (ECCC) を務めているジョナサン・ウィルキンソン氏は、2015 年に北バンクーバー議会議員に就任した。それまで 20 年以上にわたり、様々な民間企業において、グリーン技術開発の分野を牽引し

てきた。

Nexterra 社の事業開発担当副社長、QuestAir Technologies 社と元 BioteQ Environmental Technologies 社（現 BQE Water Inc.社）元社長としてエネルギー・環境技術分野に従事してきたほか、コンサルティングファーム Bain&Company 社での経験も有している。

オックスフォード大学ローズ奨学生時代に培った公共政策分野の知見を前サスカチュワン州首相 Roy Romanow の憲法交渉官および連邦・州関係調整官として活かした。United Way of the Lower Mainland、B.C. Technology Industry Association などの業界団体や慈善団体の役員、Walter and Duncan Gordon Foundation の財団理事・会計官を歴任。



宮崎 勝氏

環境大臣政務官。1982 年に政党機関紙「公明新聞」の記者としてキャリアをスタートし、政治部長、編集局長を歴任。2016 年に参議院議員となり、2020 年 9 月に発足した菅内閣において環境大臣政務官に就任。主に気候変動、自然環境及び資源循環政策を担当。



アーロン・ホスキンス氏

化学の博士号を持ち、水素やメタンなどの小分子触媒活性化を専門とする。現在は、カナダ天然資源省 燃料多様化部門のシニアマネージャーとして、連邦・州・国家間活動を統括する。カナダ水素戦略の策定に貢献し、輸送分野の電化、電力インフラ、代替燃料、政府車両のグリーン化などの数々のプロジェクトに携わってきた。



加藤 聖氏

環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室 室長。2000年厚生省（当時）入省。2007年より地球温暖化対策課で中長期目標や計画作成を担当。2013年より福島で除染対策課長、2016年より地球温暖化対策課でエネルギー対策特別会計を担当する地球温暖化対策事業企画官、2020年7月より現職。

藤岡 亮介氏

日本天然資源エネルギー（ANRE）の水素・燃料電池戦略局の副局長。2013年に経済産業省（METI）に入社して以来、そのキャリアのほとんどをエネルギー問題に費やしてきた。以前は、カナダを含む各国との国際エネルギー協力や日本の電力市場の再編を担当した。2019年には、カリフォルニア大学サンディエゴ校で国際関係学の修士号を取得した。



石井 一英氏

北海道大学工学部持続可能物質循環システム研究室教授。北海道大学では堅牢な農林水産業のための研究教育のディレクターを務めている。技術的・社会的側面からの廃棄物管理システム、特にバイオメタンや水素ガスのような食品廃棄物、糞尿、下水汚泥の地域バイオマスエネルギー利用システムに焦点を当てた研究を行っている。産官学の協力を得て、彼はバイオマスコミュニティ計画研究所を立ち上げ、バイオマス利活用システムを市町村に導入するための多くの事例研究を行ってきた。



イサドア・デイ氏

First Nation の自己統治と経済的持続可能性の発展を支援するコンサルティング企業 Bimaadzwin Inc.社 CEO 兼創設者、Serpent River First Nation 元会長、First Nations for Ontario 元地域支部長。First Nations の経済発展と自治の確保のために、政府や民間企業などと幅広く連携している。First Nations と官民各組織間の関係構築に従事しながら、オンタリオ州北部の水素輸送・産業回廊を含むクリーン・エネルギー・セクターの発展機会を模索している。



伊藤 真弥氏



ダニエル・ブロック氏

Fasken 社 政府関係 & 戦略実務グループ アソシエイト兼議長、同社が近年立ち上げた水素エネルギーアドバイザーチームの共同リーダー、水素市場の開発促進に特化した非営利法人 H2GO Canada の創業者兼会長。クライアントに対し政府の意思決定に対する企業のエクスポージャー管理を提供している。政治や政府の意思決定プロセスを深く理解しているため、リスクを管理し、官民連携機会創出を実現するための戦略策定を得意とする。



藤本 洋一氏

丸紅株式会社の新エネルギー事業開発部の上席役員。1985年に丸紅に入社して以来、エネルギー分野に深く関わってきた。過去10年間、彼は再生可能エネルギーに焦点を当ててきたが、これには投資、日本最大の太陽光発電所の運営管理、そして流通市場での販売が含まれる。また、水素の実用化に向け、国内外で様々な水素実証プロジェクトを推進している。



佐々木 祐子氏

トヨタグループの豊田通商のシニアアソシエイト。国内外での低炭素水素バリューチェーンの構築に注力。彼女は、水素の生産・供給活動の分析に関する幅広い専門知識と、水素に関連する新しい技術の評価に関する優れた知識と経験を有している。



ロブ・キャンベル氏

2017年より Ballard Power Systems 社のチーフ・コマーシャル・オフィサーに就任。これまで、自社テクノロジー製品を中国、日本、インド、欧州、米国などに展開してきた。高成長市場、エンジニアリングベースの設備機器の販売に関して、深い知見を有している。また、過去 20 年間、水素、燃料電池、再生可能エネルギーシステムの商品化にも取り組んできた。



ジェフ・グラント氏

クリーンエネルギー分野を専門とするコンサルティング会社、Zen Clean Energy Solutions 社の代表。運輸部門の電化に対する関心と官民それぞれのニーズに対する深い理解を活かし、数々のプロジェクトに従事。様々な企業で要職を歴任。Ballard Power Systems 社に 15 年間在籍し、北米バス市場のコマーシャル・リーダーや Plug Power 社のアカウント・マネージャーなどを歴任。



デイヴィッド・レイゼル氏

カルガリー大学教授、カナダのネットゼロエネルギーシステムへの移行を支援する非営利団体 Transition Accelerator のエネルギーシステムアーキテクト。自身の分析・モデル化ツールを活用し、低炭素な電力源および CCS（二酸化炭素回収・貯留）と組み合わせた化石燃料由来の水素の製造・利用・輸出を軸とした、カナダにおける活気ある水素経済を展開する機会について研究している。



グレース・クワン氏

Hydrogen in Motion 社 CEO。Hydrogen in Motion 社は固体水素貯蔵ナノ材料の技術革新に資する開発を行ってきた。25年にわたって、カナダ連邦および州政府、学界、非営利団体、民間企業など、様々なセクターに携わってきた。民間企業での経験が、マーケティング、ファイナンス、人事、生産分野における戦略的リーダーシップに活かされている。



栗山 常吉氏

昭和電工川崎工場のKPR(川崎プラスチックリサイクル事業)のチーフプロモーター。1998年よりアンモニア製造に従事。2003年、プラスチックリサイクル事業に着手し、KPR工場(プラスチック廃棄物のケミカルリサイクル)の安定操業を実現。KPR技術と低炭素水素を活用した脱炭素化戦略と循環経済の立案にも携わっている。



後藤田 龍介氏

後藤田隆介は日立の産業ソリューション事業本部長で、水素エネルギー事業を担当しています。環境省プロジェクト、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)プロジェクトなどの国家プロジェクトの代表を2016年から務めている。彼のチームは、再生可能エネルギーと水素を利用して、カーボンフリーサプライチェーンのいくつかの技術的検証を行った。



秋葉 悦男氏

九州大学水素エネルギー国際研究センター教授。東京大学大学院博士課程修了後、1979年、独立行政法人産業技術総合研究所入所。1983年から1984年まで、カナダのオタワにあるカナダ国立研究評議会のリサーチアソシエイトを務めた。2010年12月から九州大学で働いている。主な専門分野は水素貯蔵材料の研究開発で、これまでに260本以上の論文を発表している。2008年には Herbert C. Brown Award for Innovations in Hydrogen Research、2010年には IPHE Technical Achievement Award などを受賞している。



フランソワ・ジラルド氏

カナダ国家研究評議会 (NRC) 水素・燃料電池研究会技術リーダー、カナダ水素・燃料電池協会 (CHFCA) 会長。電気化学に関する専門知識と燃料電池開発における長年の経験を活かし、持続可能なエネルギーソリューションの策定などを行っている。NRC における複数の水素技術関連研究プログラムへの従事に加えて、Mission Innovation (MI) Hydrogen Challenge および International Energy Agency (IEA) Technology Cooperation Program on Advanced Fuel Cells のカナダ代表を務めている。



ディアナ・ホートン氏

トロント大学ムンク校のシニアフェロー。Wilson Center in Washington DC、Asia Pacific Foundation of Canada、Canadian Global Affairs Institute と提携しながら活動中。外交官として日本のエネルギー、技術、経済関係分野などに12年間従事し、公館次席を歴任。



エリザベス・シャート氏

GLOBE 社のエグゼクティブディレクター。サステナビリティ、イノベーション、エネルギー、クリーンテクノロジー分野において 20 年近くの経験を持つ。多くのイノベーター、投資家、政府、環境団体と協働しながら、よりクリーンで持続可能な未来を実現するための政策的、技術的、経済的、文化的な解決策を模索してきた。



グラント・ストレム氏

Proton Technologies 社会長兼 CEO。石油・ガス業界の上流部門にて経験を積んだ後に石油埋蔵量評価および銀行業務に従事した。科学や宇宙推進システムに対する関心から、物理学的に極限の酸化プロセスを理解するようになった。

同社は水素経済が世界のエネルギー連続体の頂点であると認識しており、既存インフラの用いることで、環境への悪影響を最小限に抑えながら脱炭素化を実現できるソリューションを提供可能であると確信している。